



第二中学校だより

令和5年12月号

↓二中ホームページ↓



「明るい挨拶 光る汗 きれいな学校 きれいな心」

2学期あれこれ - 課題への対応 -

校長 小関 直

2学期も様々なことがありました。集中工事期間明けの8月下旬はまだ校地内に建築資材が散見され、何となく落ち着きのない雰囲気の中、酷暑も重なり、体育祭の実施には、熱中症対策等で多くの困難が生じました。その後は、季節外れの感染症が流行し、学級閉鎖が相次ぐなど、経験したことのない事態の連続に、合唱祭に向けた取り組みにも多くの支障が生じました。その間、退職する教員が連続するなど、今年度は、現在に至るまで5人の教職員が本校を去っています。

まさに異常事態ですが、ブラックと揶揄される学校現場の現状を象徴しているかのようでもあります。教職員には、スイミー（小2・国語）の「みんなもちばをまもること」という一節を事あるたびに話しています。教職員は、皆と力を合わせ、目に見えない大きな“何か”と戦っているような気がします。

「出来ない」と言うよりも…。

こうした困難は、学校に限らず、社会全般を覆っているように感じます。人手不足、物価高、紛争の影響…。仕事をしていれば誰もが感じることかもしれません。そんな時、思い出す言葉があります。それは、鉄道技術者で新幹線生みの親と言われる 島 秀雄さんの言葉です。

「出来ない」と言うより、「出来る」と言う方がやさしい。

何故なら「出来ない」と言うためには、何千何百とある方法論の全てを「出来ない」と証明しなければならない。

しかし、「出来る」と言うためには、数々ある方法の中からたった一つだけ「出来る」と証明すればいいからである。

ことを成し遂げた人物は、皆似たようなことを言うものです。エジソンもイチローも同様のことを言っています。ドリカムも「何度でも」において「10001 回目は何か変わるかもしれない」と、歌っています。

課題に即して

困難が生じたとき、あきらめたり、投げ出したりすることは、もしかしたら一番楽な方法かもしれませんが、「逃避」は結果が伴わないためにすぐに新たな苦しみを生じさせます。やはり、課題を見据えて、解決策を考え、何度でもトライ

するしか方法はありません。また、常識や先例にとらわれていては、変化の激しい時代の課題にフィットした解決策は、見つけれないと考えています。コロナ禍の様々な取り組みがその好例ではないでしょうか。

前述した、体育祭、合唱祭は、環境要因で様々な課題が生じました。何もしなければ、当然来年も同じような問題が生じます。実施時期を含め、様々な変更、解決策を講じていかなければならないと考えています。

今日的な課題 - SNS・いじめ -

行事の他にも、日常生活の中では、様々な課題が生じています。特に厄介なのは、SNSです。デジタルギアを買い与えているのは保護者ですから、トラブルの一義的な責任は間違いなくその保護者にあります。学校ではありません。しかし、子供のコミュニティは狭く、発信の対象は学年、学級、部活に限られることが多く、必然的にトラブルの対応を学校に求めることが多くなります。ましてやSNSのトラブルが原因で、学校に来られなくなったら、いじめの重大事態に該当する人権問題です。いじめは戦いです。負けるわけにはいきません。ところが、学校への訴えのほとんどは、穏便に済ませてほしい、名前を伏せて解決してほしい、というものです。学校は教育機関であり、捜査機関ではありません。証言や証拠をもとに事情を聞き取り、指導すべき点があればしっかり指導するのが役目です。役目を果たすために次のことにご理解、ご協力ください。

- ・トラブルを認知したら、証拠画面をスクリーンショットなどで記録・保存してください。
- ・SNSのトラブルが確認されたら、双方から聞き取りをしたうえで加害生徒を指導します。指導結果は、その保護者に連絡します。問題となる書き込み等を確認し、再発防止の指導を行ってください。
- ・過去事例では、加害生徒が保身のために都合よく保護者に伝えることが多く、問題を複雑化させる要因となっていることをぜひご理解ください。
- ・いじめの重大事態に該当する場合は、法律にも基づき関係機関（教育委員会、警察、児童相談所、弁護士等）と連携して、対策委員会を開催し、事実認定を行います。認定された事実は公的な記録として記載されます。

マイナスイメージの内容を書き連ねてきましたが、総じて、2学期も“二中は二中らしく”市内中学校のトップリーダーとして、駆け抜けました。生徒の頑張りや保護者の皆様のご協力に感謝です！